

アジア・オセアニア基準設定主体グループ準備会合

コミュニケ

中国 北京 2009年4月

アジア・オセアニア基準設定主体グループ(AOSSG)の準備会合が、2009年4月17日、北京にて開催された。この準備会合は、オーストラリア会計基準審議会(AASB)、ブルネイ財務省、中国会計基準委員会(CASC)、インドネシア会計士協会(IAI)、企業会計基準委員会(ASBJ)、韓国会計基準委員会(KASB)、マレーシア会計基準審議会(MASB)、ニュージーランド財務報告基準審議会、シンガポール会計基準委員会(ASC, Singapore)、香港会計士協会(HKICPA)及びマカオ監査人会計士登録委員会(CRAC)により共同で開催された。

参加者は、以下の内容を確認した。

1. アジア・オセアニア地域は、国際経済発展の重要な原動力として、国際金融危機への対応と国際経済の再建に重要な役割を担っており、今後も担い続けるであろう。当該地域の基準設定主体は、地域における経済的繁栄及び安定に貢献するため、公共の利益の下、それぞれの立場を調整し、関係者との連携を強化しなければならない。

2. 近年、アジア・オセアニアの多くの国・管轄地域において、国際財務報告基準(IFRSs)の採用もしくはコンバージェンスが行われており、それ以外の多くの国も作業計画表やロードマップを伴うIFRSへのコンバージェンスを公表している。財務報告基準のグローバル化の一層の進展の中、当該地域の基準設定主体は結び付きを強めており、今後も強め続けるであろう。基準設定主体は、コンバージェンスの過程における課題を議論し、経験を共有するための仕組みと基盤を構築し、一組の単一の高品質なグローバルな会計基準へ貢献する必要がある。

3. 当該地域の特徴は、巨大な人口、豊富な資源、そして先進国と新興国の経済が共存していることである。地域としてIFRSの開発に公的説明責任を持って協調し参加することは、国際会計基準審議会(IASB)が、アジア・オセアニア地域の状況を考慮することを支援することとなり、よって、IASBの公的説明責任をより一層高めることになるであろう。

このような点に鑑み、参加者は、当該地域におけるIFRSの採用やコンバージェンスを促進し、一組の単一の高品質なグローバルな会計基準を設定するためのIASBの取り組みを支援し、当該地域のそれぞれの国・管轄地域の立場とIFRSの開発への参画を調整し、当該地域

における財務報告基準の整合性と比較可能性を改善し、管轄地域の公益のために財務報告の品質を向上させるため、アジア・オセアニア基準設定主体グループ(AOSSG)の設立に関連する論点を議論した。参加者は、AOSSGをできるだけ早期に設立することで合意した。

IASBのSir David Tweedie議長、2人のボードメンバー、そして国際担当ディレクターが、この準備会合に出席し、AOSSGの創設に称賛の意を表した。

AOSSGの初回会合は、2009年11月にマレーシアが主催する予定である。準備会合の全ての参加者は、当該地域の他のすべての国々のAOSSGへの参加を歓迎している。また、参加者は今回の会合が成功裏に開催されたことにホスト国であるCASCに対して感謝の意を表明した。